

味覚に関する研究——食味嗜好指数の再検討——

岡山大学 小野謙二 岡山市商高 ○田口田鶴子

目的 食味嗜好の傾向および強弱を測定する尺度として筆者らが先に提案した「嗜好指数」について、その尺度化の妥当性に関し改めて検討を加えた。

方法 日常食品のほかから、青春期女子群の食味イメージにもとずいて、甘味・酸味・塩味品各5品目を選り出し、それぞれに対する青春期女子の嗜好の強弱（好悪）を調査して、これを甘/酸比、甘/塩比、酸/塩比などの「嗜好指数」として表示した。このような「5品目嗜好指数」がはたして妥当性をもつか否かを検討するため、甘・酸・塩味品それぞれの嗜好曲線のうち、同型曲線のものを持って「1～多品目嗜好指数」を作成し、種々の角度から相互を統計的に比較検討した。

結果 嗜好曲線が全く同型であっても「1品目嗜好指数」には食味嗜好・酒類嗜好等に関する強い検出力が認められず、また過度に「多品目嗜好指数」でも検出力が劣ることが知られた。すなわち統計的に精選された5品目前後にもとずいた嗜好指数が、食味・酒類嗜好に対するすぐれた検出力を示すことが判明した。